

## 2. ばく露評価

環境リスクの初期評価のため、わが国の一般的な国民の健康や水生生物の生存・生育を確保する観点から、実測データをもとに基本的には化学物質の環境からのばく露を中心に評価することとし、データの信頼性を確認した上で安全側に立った評価の観点から原則として最大濃度により評価を行っている。

### (1) 環境中への排出量

本物質は化学物質排出把握管理促進法（化管法）第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。

### (2) 媒体別分配割合の予測

本物質の信頼できる log Kow が得られておらず、媒体別分配割合の予測は行わなかった。

### (3) 各媒体中の存在量の概要

本物質の環境中等の濃度について情報の整理を行った。媒体ごとにデータの信頼性が確認された調査例のうち、より広範囲の地域で調査が実施されたものを抽出した結果を表 2.1 に示す。

表 2.1 各媒体中の存在状況

媒体	幾何 平均値	算術 平均値	最小値	最大値	検出 下限値	検出率	調査 地域	測定年度	文献	
一般環境大気	μg/m <sup>3</sup>	0.0000018	0.000004	<0.0000009	0.00003	0.0000009	19/20	全国	2004	1)
室内空気	μg/m <sup>3</sup>									
食物	μg/g	0.000013	0.000020	<0.0000033	0.00012	0.0000033	46/50	全国	2004	1)
飲料水	μg/L	0.00083	0.0034	<0.0001	0.012	0.0001	4/6	全国	2003	2) <sup>a)</sup>
		0.00097	0.0065	0.0001	0.047	-	9/9	全国	2002	3)
		0.003	0.003	0.0025	0.0035	0.001 <sup>b)</sup>	3/3	大阪市	2007	4)
		0.0038	0.0054	0.00030	0.020	0.0001 <sup>b)</sup>	14/14	大阪府	2006	5)
		0.0024	0.0024	0.0024	0.0024	0.001 <sup>b)</sup>	1/1	大阪市	2006	4)
		0.0017	0.0023	0.001	0.0049	0.001 <sup>b)</sup>	3/3	大阪市	2005	4)
		0.0064	0.0097	<0.005	0.037	0.005 <sup>b)</sup>	11/19	東京都	2005	6)
地下水	μg/L	0.013	0.029	0.0003	0.095	0.0002	8/8	大阪府	2007	7)
		0.037	0.075	0.01	0.14	0.005	2/2	大阪市	2006	8)
		0.00037	0.00060	0.00014	0.0024	0.00005 <sup>b)</sup>	7/7	東京都、 茨城県	2005	9)
土壌	μg/g									
公共用水域・淡水	μg/L	0.0027	0.0058	0.000097	0.013	0.00005	5/5	全国	2005	10)